

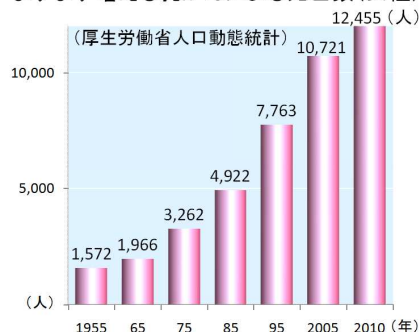
乳がん検診を受けましょう。

乳がんは増えています

現在乳がんは年間約5万人がかかり、亡くなる方も1万人以上と、35～64歳女性のがんによる死亡原因のトップとなっています。

乳がんの発生には食生活や女性のライフスタイルの変化で日本人女性のホルモンバランスが変わってきていることも原因と考えられています。

ますます増える乳がんによる死亡数(女性)



乳がんのピークは40代～50代

乳がんにかかる人は30代から増え始め40代後半から50代前半にかけてピークを迎えます。

しかし20代での発症例もあり、若いからと安心は出来ません。



日本は先進国の中で唯一乳がんによる死亡率が上昇しています。

その背景として欧米の乳がん検診受診率80%に対し日本では20%に満たないという受診率の低さが挙げられます。

年齢や乳房の状態に適した検査

乳がんの死亡率は50歳代が最も多く、罹患率は40歳代が最も多いといわれています。

このことから平成16年厚生労働省は40歳以上の方は視触診とマンモグラフィーを2年に1回受診することを推奨しています。マンモグラフィーについては、50歳以上は一方向、乳房が発達していてマンモグラフィーでは癌を発見しにくい40歳以上50歳未満の方は二方向を推奨しています。

乳がんは40歳未満にも見られることから、自己検診も重要ですが、当施設では、一年に一回の下記の検査をおすすめしています。

	視触診	マンモグラフィー	乳房超音波(エコー)検査
50歳以上	○	一方向	
40歳以上 - 50歳未満	○	二方向	○
40歳未満	○		○

40歳以上50歳未満では、乳房が発達していて雪の中で兎を探すように見つけにくいので、見逃しを防止するためマンモグラフィー二方向とするかマンモグラフィー+乳房超音波(エコー)の併用とするか乳房超音波(エコー)とするかいずれかが良いと考えています。

40歳未満の場合、同様の理由に加えて、少ないとはいえ放射線被曝を避けるため、乳房超音波(エコー)をおすすめしています。